

(様式2)

令和7年度 自己評価表

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 知久馬 和紀 印

1. 学校の教育目標

やさしく かしく たくましく ～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。
- 身に付けさせるべき資質・能力が身につく授業改善を進める。
- 地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 年度当初の評価項目

評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法
心を耕し豊かな心を育む【やさしく】 ○あたたかい学級づくり	・「いいところみつけ」の活動を通して、自分のいいところを友だちに知ってもらえていると思う児童が増えた。 ・自分の思いを伝えることに不安を感じ、意見を言えない児童がいる。 ・友だちの発言や声かけを素直に受け止められない児童もいる。	・自分の思いを安心して伝えたり、友だちの思いを受けとめたりすることができる。	・互いのよさに着目しながら生活できるよう、いいところ見つけやありがとうカードを渡す活動をする。 ・うめライスを活用してあたたかい聞き方を広げる。	・Hyper-QU[承認得点] 肯定的評価 80%以上でA、60%以上でB、60%未満でC
○友だちとのよりよい関係の構築	・人と関わろうとする児童は多い。 ・大人の目の届かないところで、人を傷つけるような言葉や呼び捨てをする児童がいる。 ・あいさつにがんばろうとする姿が増えてきた。あいさつの声も大きくなってきている。一方、あいさつをする意識が低い児童や、元気よくあいさつすることに抵抗を感じている児童もいる。	・相手を大切にしたい関わり方ができる。	・評価の主体、観点を検討しながら、月1回、学年であいさつマスターを一人選び、全校朝会で紹介する。	・児童アンケート 「誰にでも、自分からあいさつをしている」「友だちをよぶときは、『さんづけ』をしている」 A：肯定的評価 80%以上 B：60%以上

(様式2)

評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法
未来を切り拓く資質・能力を育成する【かしこく】 ○身につけるべき力の確実な定着	- 算数での各学年でつまずきが多い単元や苦手な内容は、学年が上がっても課題が残る。 - 既習事項の応用や問題を発展させていくことに苦手さが見られる。	各学年で身につけるべき技能や思考力を確実に身に着けている。	- NRT等の分析結果より、算数の各学年の苦手な単元を明確にし、リストアップする。そして課題を焦点化する。 - 重点とした単元の教材研究や教具の開発を行う。 - 朝学習での問題の選定（重点とした単元に問題を設定、身に着けるべき基礎的基本的な内容に設定）。 - 重点的に指導を行う単元を各学年、前期、後期で1単元定める。	算数科における単元テスト重点とした単元（問題）の得点率 A：90%以上 B：80%以上
○児童の意欲的な学習参加	- 算数を得意としている児童は、早く問題を解いてしまい、時間を持て余している。 - 算数を苦手としている児童は、問題の解き方に見通しを持てず、手が止まってしまう。	児童が授業のねらいをつかみ、「できそう」という見通しをもって学習に臨み、「できた」という達成感を得ることができる。	○B規準を達成した児童への方策 - 児童が次の課題意欲的に向かうための「応用・発展」問題の準備。 - 問題数の準備と確保。 - 自分問題を作る習慣づくり ○B規準を達成していない児童への方策 - つまずきの事前予測とその支援のための教具、ヘルプカード、ヘルプグッズの準備。（位取り表、九九表、単位変換シートなど） - 算数セットの活用（数ブロック、時計、数え棒） ⇒具体的操作活動の充実。	算数の授業に係る児童アンケート「(評価) 問題を解き終えたとき、どのようなことをしていますか。」「解き終わらない、困ったときにどんなことをしていますか。」 A：肯定的評価 90%以上 B：70%以上

(様式2)

評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法
健康でたくましい心と体づくりを行う【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着 ○あきらめず粘り強く身体づくりに取り組む児童の育成	・家族間でゲームやスマホの約束を共有している家庭が70%以上ある一方で、使用の約束がない家庭もある。 ・メディアに関わる時間が長く、就寝時刻について二極化が進んでいる。 ・生活リズムが整いにくく、日常生活に影響のある児童がいる。	・生活リズムが確立できる。	・ぐっすりデーの実施(毎週火曜日低学年9時、中学年9時半、高学年10時) ・各学年でメディアに関する学習を実施し、家庭での目標を作成する。	・ぐっすりデー A：達成率85%以上 ・健康アンケート 「ゲームやインターネットをするときの約束の有無」 A：達成率80%以上
地域とともにある学校づくり【開かれた学校】 ○積極的な情報発信 ○地域に学ぶふるさと教育の推進	・学校ホームページや各種たよりをとおして適時適切な情報発信に努めている。 ・参観日や各種学校行事で、児童の学校での姿や学校の様子を実際に見ていただく機会が増えている。	・学校から積極的な情報発信を行い、学校や学級の様子や、学校の経営方針等を保護者や地域が共有している。	・適時適切な情報発信と、PTAと連携した参観日等、学校行事の開催の工夫。	・保護者アンケート 「学校は、参観日や各種たよりやホームページなどで、子どもたちの様子をよく伝えている。」 「私は学習参観や学校行事に、積極的に参加している。」 A：肯定的評価85%以上
	・地域にでかける学習、ゲストティーチャーを迎えての学習は多いが、地域に貢献する活動等については工夫の余地がある。	・地域に愛着を持ち、地域のひと・もの・ことにふれあい、交流を深めたり、地域に貢献したりしようとしている。	・教科や委員会活動など、人や地域と深く関わり、ふれあうことにより、地域に発信する活動につながるよう工夫する。 ・学校行事や校外活動について見直し、検討を行う。	・単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと深く関わる学習ができたかどうかで評価する。